秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

地域支援だより
きらりNet

令和６年２月２８日
第１３９号
秋田県立秋田きらり支援学校
地 域 支 援 部

『主体的・対話的で深い学びの授業づくり～中学部１年理科「力の世界」～』

本校の研究主題「肢体不自由教育及び病弱教育における主体的・対話的で深い学びの授業づくり～単元（題材）構想シートと自立活動の視点を生かして～」として、授業実践を行ってきました。その中から中学部１年理科の授業を紹介します。

１　単元名　　力の世界

２　単元の目標　　知：知識及び技能　思：思考力・判断力・表現力等　学：学びに向かう力・人間性等

（１）力に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、基礎的な性質やそのはたらきを理解し、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。知

（２）力について問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、力のはたらきの規則性や関係性を見いだして表現する。思

（３）力のはたらきに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。学

３　主体的・対話的で深い学び、自立活動の視点での具体的な指導について

〇主体的な学び
- 日常生活で使われている身近な道具等を紹介したり、見通しをもって課題や実験に取り組めるように、学習の流れや実験の手順を分かりやすく提示したりする。

〇対話的な学び
- 生徒一人で考える時間をもちつつ、多様な視点から考えを深めることができるように、教師が生徒役で授業に参加し、意見交換の場面を設ける。

〇深い学び
- 複数の観察、実験などから得た結果を基に、多面的に考えて問題解決できるように、教師による実験を同時に行い、考察する場面を設ける。
- 力に関して科学的な見方や考え方を働かせながら探求し、知識のつながりや日常生活の中での問題発見や課題解決に結び付けられるようにする。

〇自立活動
- 安全な実験ができるように、始める前に机上を整理してから行うようにする。
- ばねに重りを吊す実験では、一人で操作できるように、実験装置を工夫する。

＜授業の概要＞

本時は、力の大きさとばねののびについて調べる実験でした。前時に立てた仮説のもと、２つののび方が違うばねに重りを吊す実験を行い、力の大きさとばねののびの関係について考えました。生徒役の教師が仮説・実験・考察を生徒と一緒に行いました。

ばねを使った身近な道具を紹介し、生活と結び付けた効果的な導入により、生徒の意欲が高まりました。生徒役の教師の存在が気付きや思考を深めるために大きな役割を果たしました。本時の課題に対して、間違いに気付いて自ら実験をやり直すなど、思考して問い続ける姿が見られました。

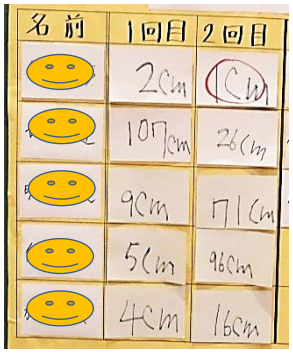
（文責：佐藤孝史）

パラスポーツ「ボッチャ」アレンジ版の紹介【全ての教育課程：体育】

「ボッチャ」はジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ６球ずつのボールを投げたり転がしたり他のボールに当てたりして、いかに近付けるかを競う競技で、様々な学校で取り扱われるようになりました。本校では、正式なルールの他に、児童生徒の実態や集団規模などに応じて様々なアレンジを加えて取り組んでいます。

ニアピンボッチャ

個人戦。ジャックボールに近付けた距離を計測して競う。ルールが単純でどんな人数にも対応可能。表に書き出すことで互いの結果を比べることができる。→→



名前	1回目	2回目
	2cm	1cm
	107cm	26cm
	9cm	71cm
	5cm	96cm
	4cm	16cm

ジャックでポン

チーム対抗戦。点数が書かれた放射状のシートを用意。チームメンバーは円周上から円の中心に向かって一斉にボールを投げる。ボールの落ちた地点の合計点数で競う。

スコアアタック

チーム対抗戦。点数が書かれた円状のシート（アーチェリーの的のイメージ）を用意。ボールの落ちた地点の合計点数で競う。

（文責：藤原恵理子）

教育専門監のつぶやき　～上記の実践のポイント～

特別支援学級を訪問する中で、体育への参加の仕方を相談される機会がとても多いです。「〇〇さんルール」を取り入れて集団での競技を行っているケース、個人競技では複数のコースから自分で課題を選択させているケース等、各校で様々な工夫がされ、大変勉強になります。

上記で紹介したボッチャはすっかりメジャーになり、取り扱っている学校も多く見られます。相手との駆け引きの中で競い合う面白さは年齢や性別を問わず楽しむことができますが、正規のルールでは難しい場合もあります。上記で紹介した３事例は、ユニバーサルスポーツを更にユニバーサルな考え方でアレンジしています。「ニアピンボッチャ」は少人数でも競い合えます。「ジャックでポン」や「スコアアタック」は、相手との駆け引きが難しい実態でも単純に高得点をねらう分かりやすさがあります。

大切なのは「どうすればできそうか」という見方だと思います。それによって、本人は「自分で運動を楽しめる」満足感に、友達は「こうすれば一緒にできる」という気付きにつながるかもしれません。「楽しい」は「もっとうまくなりたい」という技能向上の意欲にもつながります。

（文責：藤原恵理子）

教頭　佐藤　茂樹　　地域支援部主任　髙橋　亜紀
住所：〒010-1409　秋田市南ケ丘１丁目１番１号
E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp
電話：018（889）8573　　FAX：018（889）8575
「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。
http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html